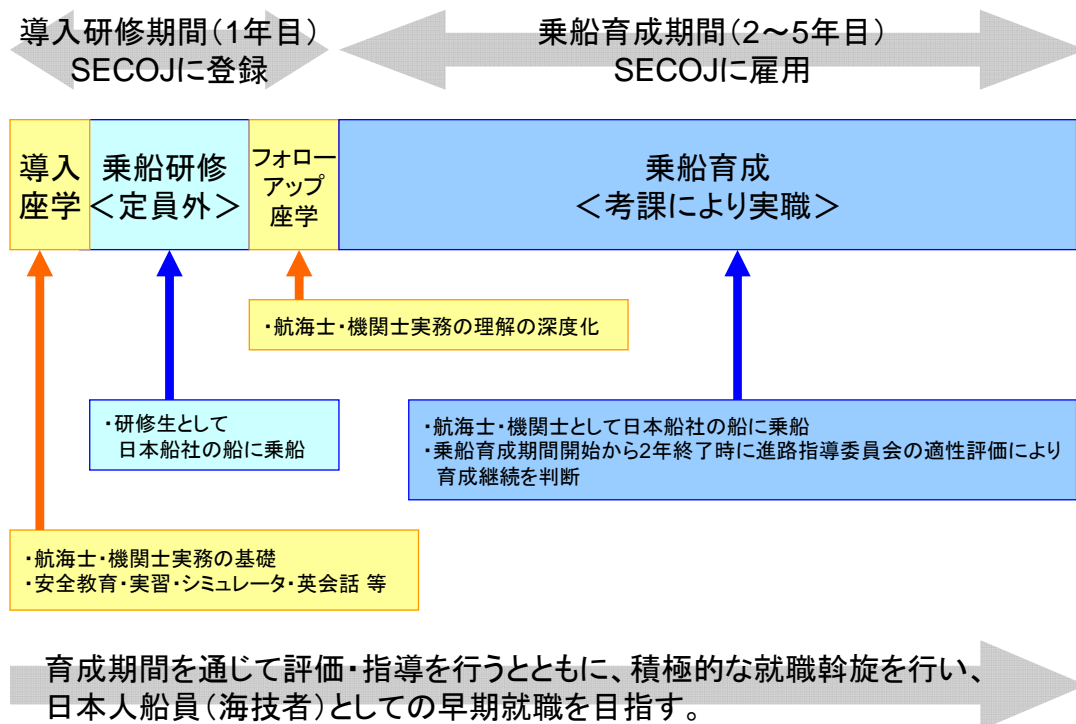


7・6 外航日本人船員（海技者）の確保・育成スキーム

7・6・1 スキームの概要

外航日本人船員(海技者)確保・育成スキーム(以下「スキーム」)は、国土交通省、全日本海員組合、当協会および国際船員労務協会(平成 22(2010)年 7 月より参画)で構成する「外航日本人船員(海技者)確保・育成推進協議会」が運営し、日本船員福利雇用促進センター(SECOJ)が実施団体となっている。また、スキームは、船員教育機関の卒業生を対象に、実際に海運会社が運航する外航商船での実務経験を通じて、即戦力として活躍できる海技者としてのキャリア形成を図ることを目的としている。育成期間は、最長 5 年とし、導入研修 1 年とその後の乗船育成期間で構成される。導入研修では、海技大学校での座学講習(前期 2 ヶ月・後期 3 ヶ月、計 5 ヶ月)と前期・後期座学の間実施される乗船研修(7 ヶ月)が行われ、育成要員はこの間、外航船舶職員の実務に必要な基礎知識を習得する。また、乗船研修では、育成要員は研修生として外航商船に乗船し、この間に行われる評価を元に、推進協議会の下に設置した進路指導委員会(=国交省、国船協、全日海、SECOJ、当協会で構成)において 2 年目以降に船舶職員として実職が執れるか考課が行われる。乗船育成期間では、同考課を経て、原則 3 等航海士・機関士として外航商船に乗り組み、実務経験を積んで外航船舶職員としての就職を目指すこととしている。(以下育成スケジュール参照)

【育成スケジュール】



7・6・2 育成要員の現状

<1期生:平成19(2007)年10月育成開始>

1期生については、平成19(2007)年10月に11名(航海9名/機関2名、内女性1名)がスキームによる育成を開始した。このうち、これまでに航海士5名(女性1名を含む)が外航への就職を果たし、航海・機関士各1名の計2名が内航へ就職した。その他2名(航海・機関各1名)が陸上に就職した結果、平成23(2011)年3月末時点で航海士2名がスキームでの育成(乗船育成)を継続している。

<2期生:平成20(2008)年10月育成開始>

2期生については、平成20(2008)年10月に17名(航海15名/機関2名、内女性4名)がスキームによる育成を開始した。このうち、平成23(2011)年3月末時点で、既に航海士8名、機関士1名(女性2名を含む)が外航に就職した他、その他官庁(教育機関)に航海士1名(女性)が就職を果たし、航海士1名が陸上に転進した結果、現在は航海士5名、機関士1名がスキームでの育成(乗船育成)を継続中である。(平成23(2011)年3月末にスキームを離脱し、4月1日付で就職した1名は「就職者」としてカウント)

<3期生:平成21(2009)年10月育成開始>

3期生については、平成21(2009)年10月に17名(航海15名/機関2名、内女性1名)がスキームによる育成を開始した。3期生に関しては、平成22(2010)年9月末に導入研修(1年目)を終え、10月以降順次、乗船育成に移行し、原則三等航機士若しくは次席三等航機士として社船において実職を執っている。なお、平成23(2011)年3月末時点で航海士4名が外航に就職を果たし、航海士1名が内航へ就職、同2名が三級水先コース等に転進した結果、現在は航海士6名、機関士2名(内女性1名)がスキームでの育成を継続中である。

<4期生:平成22(2010)年10月育成開始予定>

4期生については、平成22(2010)年10月より17名(航海15名/機関2名、全員男性)が海技大学校で前期座学研修を開始し、12月から平成23(2011)年6月末までわが国外航船社が運航する船舶で乗船研修を行っている。乗船研修中は、これらの船舶において、3等航海士/機関士として必要な基礎知識の習得が求められるとともに、2年目以降、船舶職員としての実職を執ることができるかについて評価が行われる。

<5期生:平成23(2011)年10月育成開始予定>

平成23(2011)年10月よりスキームによる育成を開始する4期生(定員20名)については、既に募集を開始しており、進路指導委員会において、平成22(2010)年9月に第1回、平成23(2011)年3月に第2回の面接を行っている。内定者の辞退等により、平成23(2011)年3月末時点でまだ定員を充足していないことから、今後追加募集を行う予定である。

7・6・3 平成22(2010)年度の主な活動

平成22(2010)年

- | | |
|---------|--|
| 4月15日 | 学校訪問(生徒募集説明)(於 富山高専。当協会山上係長出席) |
| 5月12日 | 学校訪問(生徒募集説明)(於 大島商船高専。当協会山上係長出席) |
| 6月29日 | 学校訪問(生徒募集説明)(於 東京商船大学。当協会石川副部長出席)
なお、この他にも事務局(SECOJ)中心に、東海大学、広島商船高専、神戸大学、弓削商船高専、鳥羽商船高専を訪問し、教員との懇談及び生徒への説明を実施。 |
| 7月17日 | 第9回推進協議会(於 海運ビル。国際船員労務協会の推進協議会参加承認、平成21年度決算の承認等。当協会林副会長、石川部長他出席) |
| 7月21日 | 平成22年度配乗船募集説明会(於 今治国際ホテル。当協会林副会長他出席) |
| 7月22日 | 平成22年度配乗船募集説明会(於 マリナーズコート東京。当協会林副会長、石川部長出席) |
| 7月26日 | 平成22年度配乗船募集(書面、当協会会員他) |
| 8月30日 | 第15回進路指導委員会(於 海運ビル。1期生育成継続評価等(1期生面接含む)。当協会林副会長、石川部長他出席) |
| 9月1日～2日 | 4期生採用補充面接、5期生採用面接(於 海運ビル。当協会林副会長、石川部長、小山労政幹事長他出席) |
| 9月22日 | 3期生指導面接(於 海技大学校。当協会小山労政幹事長、石川部長出席) |
| 10月1日 | 4期生出帆式(於 海技大学校。当協会林副会長他出席)
1～3期生平成22年度乗船育成開始、4期生前期座学開始 |
| 11月2日 | 船員教育機関との意見交換会(於 マリナーズコート東京。当協会林副会長、石川部長、小山労政幹事長他出席) |

平成23(2011)年

- 3月4日 第10回推進協議会(於 海運ビル。平成23年度予算の承認等。当協会林副会長、石川部長他出席)
- 3月10日 5期生採用補充面接(於 海運ビル。当協会林副会長、石川部長、田中労政幹事長他出席)

【関係者名簿(平成23(2011)年3月末現在)】

<外航日本人船員(海技者)確保・育成推進協議会>

委員:林 忠男 日本船主協会 副会長
石川 尚 日本船主協会 企画部部長(国際担当)
栢原 信郎 国際船員労務協会 理事
井上登志仁 国際船員労務協会 常務理事(事務局長)
森田 保己 全日本海員組合 国際局長
渡部 慶二 全日本海員組合 国際局外航部長
石澤 龍彦 国土交通省 海事局 海事人材政策課長
山内 信重 国土交通省 海事局 海事人材政策課 海事振興企画室長
オブザーバー:久米 洋司 国土交通省 海事局 海事人材政策課雇用対策室長
幹事:山上 寛之 日本船主協会 企画部課長代理
姥 裕彰 国際船員労務協会 船長
浦 隆幸 全日本海員組合 国際局外航部専任部長
吉村 裕行 国土交通省 海事局海事振興企画室外航船員対策係長
事務局:日本船員福利雇用促進センター(SECOJ)

<進路指導委員会>

委員長:林 忠男 日本船主協会副会長
委員:田中 俊弘 日本船主協会労政幹事長(日本郵船 人事グループ グループ長代理)
渡部 慶二 全日本海員組合国際局外航部長
井上登志仁 国際船員労務協会常務理事(事務局長)
増田 恵 日本船員福利雇用促進センター参与